

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
アルコール依存症の早期介入から回復支援に至る
切れ目のない支援体制整備のための研究（20GC1015）

令和4年度分担研究報告書

「女性・高齢者のアルコール関連問題の課題抽出、認知行動療法について
エビデンスの収集に関する研究」

研究分担者 杠岳文 国立病院機構肥前精神医療センター 院長

研究要旨：初年度に行った介護支援専門員協会会員を対象にした全国アンケート調査では、在宅で飲酒問題を抱える高齢者支援に関わる介護支援専門員が必要としているものとして、精神科などの医療機関、行政、福祉との連携あるいはネットワーク会議、アルコール問題の相談機関リスト、地域保健師との連携などが多く挙げられた。本年度は、アンケート調査に自由記載された対応に苦慮した事例を複数例組み合わせ、架空の在宅高齢者アルコール問題21事例を作成し、この仮想事例について多機関7職種による事例検討会を開催、そこで述べられた事例についての見立て、評価、対応についてのコメントを基に、現場で飲酒問題を抱える在宅高齢者の支援にあたる介護支援専門員や介護福祉士が指針として参照できる「在宅高齢者アルコール問題対応の道標～多機関多職種による事例検討集～」を作成した。妊産婦の飲酒問題に対する対策では、2020年度のアンケート調査結果から、節酒指導に避ける時間が1～5分、ツールの形態としてはリーフレットがよいという産婦人科医らの希望が分かった。こうした要望を受け、2021年度は、妊産婦向けのメンタルヘルス用リーフレット佐賀県版を作成した。2022年度は、さらに研究協力者を募り、長崎県版、兵庫県版を作成した。また、今後わが国のアルコール依存症治療で行われている認知行動療法の実態を明らかにし、効果的・標準的な治療に繋げる計画である。

研究協力者：

福田貴博 あきやま病院 医師
角南隆史 佐賀県医療センター好生館 医長
石井博修 佐賀県医療センター好生館 部長
武藤岳夫 肥前精神医療センター 医長
松口和憲 肥前精神医療センター 医師
手塚幸雄 沖縄リハビリテーションセンター
病院 医師
射場亜希子 兵庫県立はりま姫路総合医療セン
ター 医師
田中完 日本製鉄鹿島製鉄所 産業医
柴口里則 日本介護支援専門員協会 会長
坪根雅子 日本介護支援専門員協会常任理事
榊寿恵 長崎市江平・山里地域包括支援セ
ンター 介護支援専門員
大塚和之 大悟病院 医師
吉田由美 佐賀県精神保健福祉センター 保
健師
八ヶ代真弓 大悟病院 心理士
山口玲子 佐賀県精神保健福祉センター 心
理士
坂田利香 吉野ヶ里町役場こども・保健課
保健師
田中伸明 日本介護福祉士会 介護福祉士
泉幸恵 日本介護福祉士会 介護福祉士
橋口哲也 日本介護支援専門員協会 介護支
援専門員
樋田香織 久里浜医療センター 看護師
久保亮介 久里浜医療センター 看護師
鷺谷幸代 社会福祉法人こころ 精神保健福
祉士
鈴木信芳 久里浜医療センター 精神保健福
祉士

A. 研究目的

本分担研究は、①高齢者の飲酒問題とその対策（杠ら）、②妊産婦の飲酒問題実態把握とその啓発（福田ら）、③アルコール依存症に対する認知行動療法のエビデンス収集と治療の実態把握（角南ら）の3つの課題からなる。以下、研究テーマ毎に報告する。

① 高齢者の飲酒問題

令和2年度に行った介護支援専門員協会会員を対象にした全国アンケート調査から、在宅で飲酒問題を抱える高齢者支援に関わる介護支援専門員が必要としているものとして、精神科などの医療機関、行政、福祉との連携あるいはネットワーク会議（75.2%）、アルコール問題の相談機関リスト（68.3%）、地域保健師との連携（52.1%）などが多く挙げられたことから、アルコール問題に関しても、医療と介護・福祉、行政のさらなる連携強化が求められていることが分かった。

このため最終年度は、アンケート調査に自由記載された対応に苦慮した事例を複数例組み合わせ、さらに分担研究者、研究協力者らの臨床経験も織り交ぜながら、架空の在宅高齢者アルコール問題事例21例を作成した。その上で、介護福祉士、介護支援専門員、精神保健福祉士、保健師、心理士、看護師、精神科医師の7職種各2名計14名の

協力を得て、21の仮想事例についての事例検討会を開催、介護支援専門員や介護福祉士が指針として参照できる事例検討集作成を目指した。

② 妊産婦の飲酒問題

近年、若年女性の飲酒問題は増加傾向であり、妊産婦においても2009年の厚生労働省の調査によれば、妊娠中に飲酒した経験のある妊婦の割合は8.7%である。2018年、協会けんぽ沖縄支部と那覇市浦添市との共同調査では、妊娠中の飲酒が14%であった。一方、妊産婦への飲酒に対する指導は、十分とは言えない。

本研究では、妊産婦における飲酒の実態を明らかにするとともに、妊産婦対象の飲酒問題を含めた啓発用リーフレットを作成する。また、妊産婦対象に、飲酒問題を含めた啓発用リーフレットを配布する。

③ アルコール依存症に対する認知行動療法

アルコール依存症に対する認知行動療法の治療効果については、国内外において既にエビデンスは確立されているものの、実際に国内の各施設で認知行動療法がどのような形で行われているかは不明である。アルコール依存症に対する認知行動療法について国内外の文献収集を行うとともに、有効性についてのエビデンスを集めることを目的とする。また、本研究班全体で行われるアルコール依存症診療の実態調査において診療の中で認知行動療法がどの程度行われているのか実施状況を調査し、各施設で用いられているアルコール依存症に対する認知行動療法のテキストを集め、わが国のアルコール依存症治療における認知行動療法について、解析と検討を行う。

B. 研究方法

① 高齢者の飲酒問題

昨年度に対応困難事例として類型化したa.認知症関連、b.介護者飲酒問題、c.専門医療機関等との連携、d.ターミナルケア・死亡、e.家族の負担とかかわり方に関する問題、f.飲酒、酩酊にまつわる様々な問題、g.その他の問題の分類に沿って、複数の事例の要点を組み合わせながら、分担研究者と研究協力者らは21例の架空事例を作成した。予め事例を提示し、WEB上で1回2時間の7事例ずつの事例検討会を計3回行い、意見交換を行うとともに、後日各自のコメントを文書にまとめて提出してもらい、事例検討集としてまとめた。また、重要な用語

についてはコラムとして解説を加え、相談窓口や専門医療機関リストなどもリンク先を表示し、参照できるようにした。

(倫理面への配慮)

プライバシーに配慮し、複数の事例を組み合わせ創作した仮想事例について検討を行った。

② 妊産婦の飲酒問題

2022年度は、2021年度に作成した妊産婦対象のメンタルヘルス及び節酒指導用リーフレットを、各自治体の具体的な相談先を一つのサイトにまとめて、そこにリンクさせたQRコードを載せ、地域密着型のリーフレットを作成する。この地域密着型のリーフレットを作成する協力者を募集し、協力者と共に、行政の母子保健を担当する窓口へリーフレットを置き、妊産婦へ配布する。

③ アルコール依存症に対する認知行動療法

2022年度は、各施設においてアルコール依存症に対する認知行動療法に基づいた治療がどのように行われているのか、解析・考察を行う計画である。

C. 研究結果

① 高齢者の飲酒問題

作成した21事例は、以下のようなものである。それぞれキーワードとともに作成し、参照しやすいように工夫した。

【仮想事例①】アルコール問題を自覚、支援者の相談先、飲酒日記

【仮想事例②】介護者のアルコール問題、酩酊時の虐待、支援者の相談先

【仮想事例③】離脱症状、認知機能低下、酩酊して転倒、アルコール問題の相談先

【仮想事例④】アルコール問題を自覚、専門医療機関、断酒会、飲酒運転

【仮想事例⑤】認知症に続発したアルコール問題、専門医療機関

【仮想事例⑥】アルコールと向精神薬の併用、認知機能低下、ヘルパーにセクハラ

【仮想事例⑦】飲酒して家族に暴力、警察介入で反省

【仮想事例⑧】アルコール依存症の介護者、ネグレクト、虐待

【仮想事例⑨】飲酒運転、デイサービス参加日は飲酒せず、運転免許返納

【仮想事例⑩】認知症、酩酊して失禁、喫煙、ノンアルコール飲料

【仮想事例⑪】認知機能低下、酒臭させデイサービス参加、万引き、孤独、専門医療機関

【仮想事例⑫】認知症、末期大腸がん、デイサービスでのアルコール飲料提供の可否

【仮想事例⑬】独居、ごみ屋敷、ボヤ騒ぎ、肝硬変、専門医療機関入院

【仮想事例⑭】疼痛で酒量増加、暴力で家

族がうつ状態、依存症の家族相談

【仮想事例⑮】末期食道がん、依存症患者のターミナルケアでの飲酒、家族の不安

【仮想事例⑯】肝臓がん、手術への不安、ヘルパーにセクハラ

【仮想事例⑰】独居、世話焼きの姉、断酒会参加で断酒、専門医療機関入院、飲酒運転

【仮想事例⑱】酩酊して転倒、認知機能低下、好きなだけ酒を飲ませる家族、家族うつ状態

【仮想事例⑲】独居、他人の大家が世話、酒屋が電話で配達、酒代で公共料金払えず

【仮想事例⑳】酩酊保護繰り返し、酩酊保護時に警察からケアマネジャーに連絡が入る

【仮想事例㉑】断酒中のアルコール依存症患者の予期せぬ自死、飲み仲間の誘い

以下に、実際に提示した事例の一例（仮想事例㉑）を示す。

Uさん68歳男性。单身生活保護。元大工。30歳代半ばよりアルコール問題あり、40歳時に離婚。男手一つで何とか二人の娘を育てた。二人の娘が独立した後、50歳頃からアルコール依存症で専門医療機関への入退院を繰り返していた。酩酊して隣の家に上がり込んだり、道路に寝て保護されたりすることなど繰り返し、娘達とも疎遠になっていた。5年前に娘から孫のサッカーの試合の応援に誘われ、その後は孫に会うことを楽しみに、時に飲酒することはあるが月単位で断酒する時期も見られ、飲酒してない時には、娘や孫との交流ができるようになっていた。そして、庭掃除をしたり、気軽に隣人に挨拶をしてくるUさんの態度や様子の変化に、民生委員や近所の住人も驚いていた。Uさんは3年前に脳出血で、構音障害と左半身に麻痺を残し、要支援2と認定され、訪問看護と通所リハ、家事援助などの在宅サービスを受けながら、最近断酒が続いていた。先月、孫のサッカーの試合の応援に行く予定の前夜、たまたま昔の飲み仲間二人がUさん宅を訪れ、Uさんにしつこく酒を勧めたため、Uさんは断り切れず飲んでしまい、結局酔い潰れてしまった。翌朝、娘が迎えに来た時には、酔って寝ており、Uさんはサッカーの応援に行くことができなかった。その2日後、訪問に訪れたヘルパーが、居間で縊死しているUさんを発見した。テーブルには、「サッカーの応援に行けなくて申し訳なかった」と書かれた娘と孫宛の遺書が置いてあった。

事例検討会開催時には、ディスカッションのポイントとして、以下を予め提示した。

①Uさんの家族との関係改善から死に至

るまでの心の変化をどのように理解するか？

②残念ながら自殺に至ったUさんの死を支援者はどう受け入れるのか？

③自殺現場に出合ったヘルパー、ケアマネジャーをどうケアするか？

④Uさんに対して周囲が支援できたことは他になかったのか？

⑤その他

全21事例について、7職種から出された様々なコメントや事例についての見立て、評価、対応についての意見を基に、現場で飲酒問題を抱えた在宅高齢者の支援に当たる介護支援専門員や介護福祉士が参照できるように「在宅高齢者アルコール問題対応の道標～多機関多職種による事例検討集～」(A4判、約80項)を用語の解説とともに作成した。

妊産婦の飲酒問題

2022年度は、2021年度に行った婦人科医らにアンケート調査に基づいて作成した、妊産婦向けのメンタルヘルス用リーフレット佐賀県版を基に、各自治体版作成を呼び掛けた。結果として、長崎県版、兵庫県版の作成協力が得られた。リーフレットの印刷及び各自治体内の関係医療機関や行政の母子保健担当部署へ配布を行った。また、依存症対策全国センターのホームページにPDFでフリーにダウンロードできるように掲載している。

③ アルコール依存症に対する認知行動療法

2022年度はアルコール依存症に対する認知行動療法について、再度、国内外の文献・エビデンスの収集を行い、まとめを行った。

また、本研究班全体で行われるアルコール依存症診療の実態調査において調査に盛り込む調査項目として、「ARPでどのような治療技法を用いていますか？」の設問を加え、認知行動療法(CBT)、動機づけ面接法(MI)、随伴性マネジメント(CM)、家族療法(CRA)、クラフト(CRAFT)、内観、座禅、瞑想、マインドフルネス、運動療法、作業療法、SST、自助グループ、貴施設のOG/OGとの面談、個別心理面接、退院前訪問、その他(自由回答)などを回答肢とすることを検討している。

D. 考察

① 高齢者の飲酒問題

研究開始当初は「高齢者アルコール問題

対応マニュアル」作成も検討したが、未だエビデンスに基づく「正しい」対応を示すことができる段階にはなく、現場での実用性、有用性を考え、介護現場で対応に苦慮している困難事例について、医療、介護・福祉、行政機関に勤務する多職種での事例検討会をWEB上で行い、その後多機関全7職種の立場から事例についての見立て、評価、対応についてのコメントを集めた。それを基に、「在宅高齢者アルコール問題対応の道標～多機関多職種による事例検討集～」を作成した。この事例検討集は、現場で飲酒問題を抱える在宅高齢者の支援にあたる介護支援専門員や介護福祉士にとって、在宅高齢者アルコール問題対応困難事例を多角的に読み解き、他機関と連携し、有効な支援に繋げる際の道標になるのではないかと期待する。

② 妊産婦の飲酒問題

2021年度は、妊産婦向けのメンタルヘルス用リーフレット佐賀県版を作成した。2022年度はこれを基に、さらに長崎県版、兵庫県版を作成した。各自治体の妊産婦のメンタルヘルスに関する相談先一覧がリンクできるため、地域密着型のリーフレットは有用であると考えられる。

③ アルコール依存症に対する認知行動療法

今後、治療実態調査に基づいて、各施設においてアルコール依存症に対する認知行動療法に基づいた治療がどのように行われているのか、解析・考察を行う予定である。

E. 結論

① 高齢者の飲酒問題

介護支援専門員協会会員を対象にした全国アンケート調査から在宅で飲酒問題を抱える高齢者支援に関わる介護支援専門員が必要としているものとして、精神科などの医療機関、行政、福祉の連携あるいはネットワーク会議、アルコール問題の相談機関リスト、地域保健師との連携などが多く挙げられたため、本年度はアンケート調査に自由記載された対応に苦慮した事例を複数例組み合わせ架空の在宅高齢者アルコール問題事21事例を作成、この仮想事例について多機関全7職種による事例検討会を開催、そこで述べられたコメントや事例についての見立て、評価、対応についての意見

を基に、現場で飲酒問題を抱える在宅高齢者の支援にあたる介護支援専門員や介護福祉士が参照できる「在宅高齢者アルコール問題対応の道標～多機関多職種による事例検討集～」を症例のキーワードと基本的な用語の解説とともに作成した。この事例検討集が、在宅高齢者アルコール問題対応困難事例を多角的に読み解き、他機関と連携し、有効な支援に繋げる指針になることを期待している。

② 妊産婦の飲酒問題

本年度の研究では、妊産婦向けのメンタルヘルス用リーフレット佐賀県版に基づき、長崎県版、兵庫県版を作成した。今回のような妊産婦向けのメンタルヘルス用リーフレットに、具体的な節酒指導を盛り込んだ資料は未だ少なく、今後の妊産婦に対しての節酒指導の質の向上につながるものである。上記の妊産婦向けメンタルヘルス用リーフレットを、各自治体の母子保健担当課や産婦人科へも配布し、実際に使用することで、妊産婦への幅広い支援につながり、意義はあると考えられる。

③ アルコール依存症に対する認知行動療法

各施設に対して上記の質問の実施し、各施設で用いられているテキストを集めて実態調査、解析を行うことにより、アルコール依存症の回復・支援に係る効果的な対策が期待される。

F. 健康危険情報

特になし。

G. 研究発表

1. 論文発表

杠岳文：高齢者のアルコール問題—介護現場におけるアルコール問題—。日本アルコール関連問題学会雑誌。22；7-10，2021。

2. 学会発表

福田貴博、石井博修、角南隆史、手塚幸雄、松口和憲：妊産婦用メンタルヘルス用リーフレット作成。第57回日本アルコール・アディクション医学会。仙台，2022年9月8～10日。

H. 知的財産権の出願・登録状況

特になし。